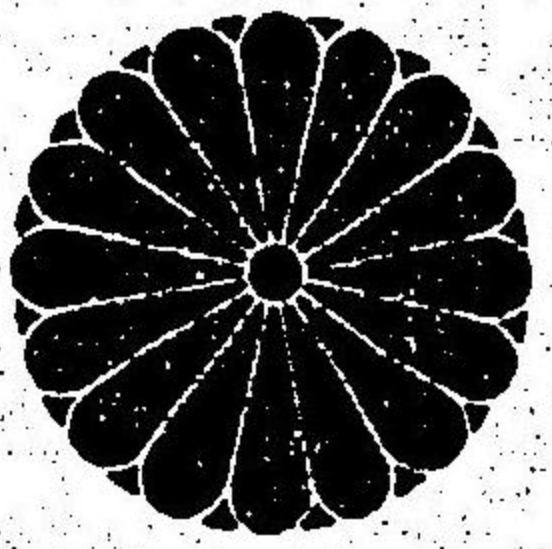




大祭祝日義解



勅語



朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ
 樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億
 兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國
 體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民
 父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉
 己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ
 智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ
 開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一日緩急アレハ義
 勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ
 如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラズ又以テ
 爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
 斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民
 ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ
 中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ
 咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治廿三年十月三十日

御名 御璽

大祭祝日義解

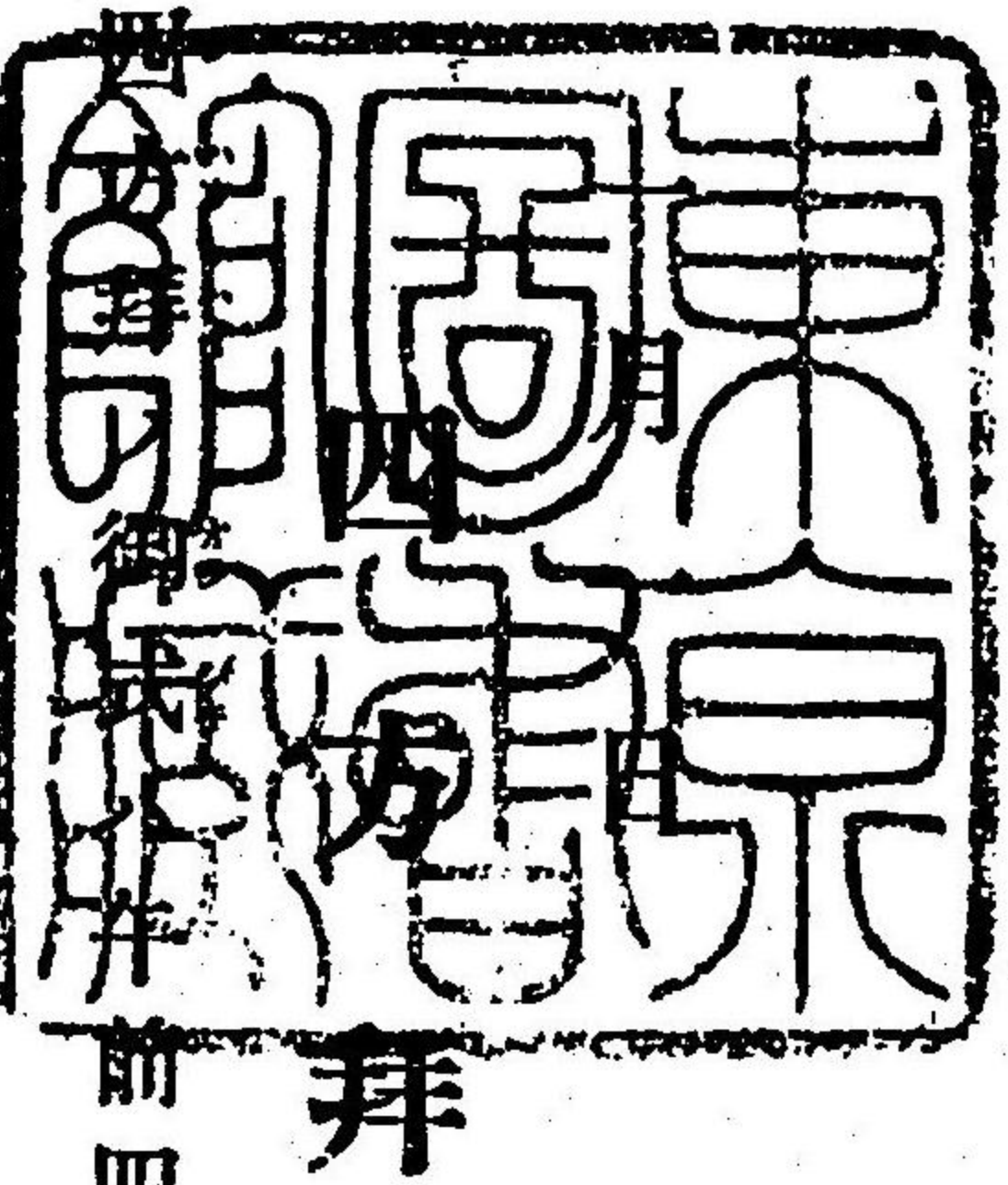
目次

| | | |
|-------|-------|-----|
| 一月一日 | 四方拜 | 一 |
| 一月三日 | 元始祭 | 十三 |
| 一月三十日 | 孝明天皇祭 | 十七 |
| 二月十一日 | 紀元節 | 二十一 |
| 三月廿一日 | 春季皇靈祭 | 二十五 |
| 四月三日 | 神武天皇祭 | 三十二 |
| 九月廿三日 | 秋季皇靈祭 | 三十七 |
| 十月十七日 | 神嘗祭 | 三十七 |

| | | |
|--------|----------|-----|
| 十一月三日 | 天長節…………… | 四十二 |
| 十一月廿三日 | 新嘗祭…………… | 四十八 |

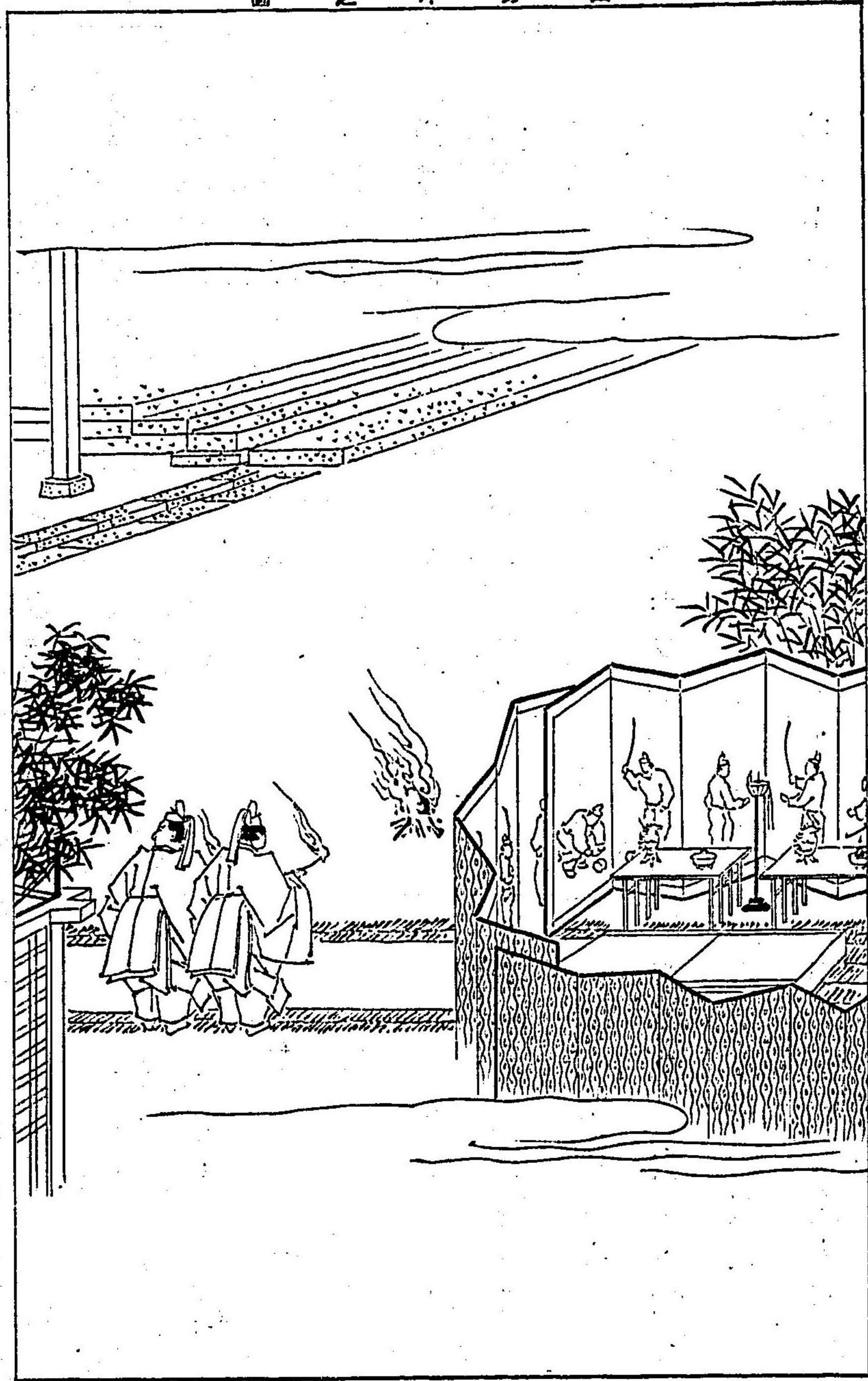
大祭祝日義解

帝國大學教授兼陸軍教授内藤耻叟謹撰



前四時ニ神嘉殿ノ南庭ニ屋ヲ設ケ屋ノ中央ニ著薦ヲ敷キ四尺ノ御屏風ニ雙ヲ立廻ラシ御座ヲ設ケ燈臺ニ基ヲ供ス同五時祭服ヲメシテ帛ノ御服ナリ凡ソ御祭典ニハシテ出御アリ御手侍從奉仕ス先西方ニ向ハセラレ皇太神官ヲ拜シ給フ次ニ豐受太神官次ニ天神地祇ヲ御拜アリ又西方ニ向ハセラレ神武天皇陵次ニ孝明天皇陵次ニ北方ニ向ハセ給ヒ氷川神社次ニ西方ニ

四 方 拜 之 圖



四 方 拜

二

向ヒテ賀茂上下社男山八幡宮次ニ東方鹿島香取神宮ヲ拜セラ
 ル畢テ賢所皇靈殿神殿ノ御拜アリ其御式ハ午前四時ニ御殿ノ
 裝飾ヲ奉仕ス次ニ式部官員着床次ニ開扉三前此次ニ神饌ヲ供ス
 此間次ニ祝詞ヲ奏シ御親ヲ御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜畢テ入御次
 ニ神饌ヲ徹シ此間次ニ閉扉此間七時晴御膳ヲ上ル大膳職ヨリ九時
 ヨリ親王諸臣ノ朝賀ヲウケサセ給フ
 謹按ニ四方拜ノ御事ハ宇多天皇ノ寛平中ニ始マリ延喜以來
 常式トナリ後世マテモ改メラレス但明治ノ初メヨリ古禮ヲ
 斟酌改定アラセラレ古昔ノ禮天地屬星ヲ拜セラレ咒文ヲ唱
 ヘサセ給フナドイフ事ヲハト、メラレテ本文ノ如ク皇太神
 宮以下諸神ヲ拜セラル、事トナレリサテ皇太神宮ノ御事ハ

四 方 拜

三

後ニイフベシ天神地祇ト申スハ日本紀古事記ニ見エテ又天
 社國社トモ申ス凡天地開闢ノ初ヨリ皇祖皇宗ヲ輔佐羽翼シ
 奉リテ功德アル神又ハ勅命ヲ蒙リテ國土人民ヲ安定シタル
 勳功アル神人ヲ申スナリ姓氏錄ニ天神地祇天孫ノ別アリテ
 天神ハ天祖以前ノ神孫ヲ申シ地祇トハ素盞鳴尊ノ神裔ヲ申
 ス天孫トハ天祖以後ノ御子孫ヲ申シ何レモ合セテ之ヲ神別
 ト定メラレタリ按ニ古ヘカミト稱スルハ今ノ人ノ上トイフニ同シク其
 人上ニアリテ下ヲ治メ教ヘ給ヘル聖君賢臣ノ御事ヲ汎
 スナリト申次ニ神武天皇ハ始メテ大倭國ニ都ヲ定メサセ給ヒテ
 天下ヲ一統シタル遠御祖ニマシマシ孝明天皇ハ親シキ御父
 神ニマシマセハ殊ニ此二ノ山陵ヲ拜サセ給フナルベシ古昔
 方拜ノ後ニ山陵
 ヲモ拜シ給ヘリ次ニ氷川神社ハ武藏國足立郡大官驛ニ鎮座ア

ル大巳貴神素盞鳴尊ノ社ナリモト武藏國造ノ齋ヒ祀レル所
 ナリ武藏國造ハ出雲國造ト同族ニテ天穗日命ノ子孫ナルハ
 出雲ノ神ヲ祭リテユ、ヨモ大社ト申ス也氷川トイフモ篠川
 ノ名ニ似通ヒタリ是
 レ古ヘヨリ本國ノ一ノ宮ナレハ今皇城ヲ此國ニ定メ給フニ
 ツキテ殊ニ此神ヲ御拜アルヲナルベシ次ニ賀茂上下社石清
 水八幡宮ヲ拜セラル、ハ舊山城國ニ皇居ヲ奠メラレシ時殊
 ニ崇敬セサセ給フ神ナレバ猶ユレヲ拜セラル、ナルベシ賀
 茂大神ハ建角見命ヲ下社ト申シ別雷神ヲ上社ト申ス此神ハ
 神武天皇ニ從ヒテ功勳アリテ山城國ニ止リ給ヒ又別雷神ハ
 其孫ニテマシマス也男山八幡宮ハ應神天皇ニテ清和天皇ノ
 貞觀元年ニ筑前宇佐宮ヲ移シ祭ラレシ所ナリ次ニ熱田神宮

ハ三種神寶ノ其一ナル草薙ノ御劔ノ鎮坐ス所ナレハ殊ニ御拜アルニヤ次ニ鹿島香取ハ東國ニアリテ皇城ノ近キ守リナレハ之ヲ御拜アルナルベシ其鹿島神宮ハ健御雷神香取神宮ハ經津主神ニテ共ニ天祖ノ勅ヲ受ケテ中國ヲ平定シ大功アル名臣ニマシマセバナリ皇太神宮以下天神地祇ヨリ鹿島香取ノ神ニ至ルマデイツレモ此國此民ニ功德アル君主朝臣ニシテ一ツモ無形ノ神ニハアラズ彼漢唐ノ主ノ祭レル天地山川鬼神ナドイヘル者トハ同日ノ談ニアラズ扱又賢所ト申シ奉ルハモト温明殿ト申シ又内侍所トモ申シテ伊勢皇太神宮ニマシマス御鏡ノ形ヲ崇神天皇ノ御時ニ模造シ給ヘル御鏡ニマシマスナリ是ハカシユクモ天祖ノ當猶視吾ト祝給ヘル

御鏡ノ御神代ナレハ内裡ニ近ク祭ラセ給ヒテ今モ賢所ト申シ奉ル也賢所トハ日本紀略ニ見エテ又威所ニモ作り尊所畏所ナト、モカケリイツレモ皆カシユ所ト訓ズ詞ノ心ハカシユミ敬ヒ奉ルノ義ナルベシ又皇靈殿ト申スハ古ヘハ此設ケナク只時々ニ山陵ノ御遙拜又ハ荷前ノ幣ナド奉ラレシノミナリシヲ明治ノ初メヨリ特ニ新ニ設ケラレテ歷代ノ御靈ヲ祀ラセ給ヘリ次ニ神殿ト申スハ昔ヨリ神祇官ニ祭ラセ給ヘル八神殿ヲ御再興アリシナリ此八神ト申シ奉ルハ神代紀ニ見エタル神籬磐境ノ遺制ニテコレヲ齋庭トモ靈時トモ書ス即チ後世神祇官ト稱スルモノ是ナリ其祭ル所ノ神二十三座アリテ中ニモ神御産日神高御産日神玉積産日神玉積又玉留ニ

生産日神足産日神大官賣神御食津神事代主神ノ八神ヲ重ク
 祭ラレシナリソノ神御産日神高御産日神二柱ハ天地初發ノ
 時ニ此國土ヲ開キ萬物ヲ生シ給ヒシ我國土民物ノ太祖ニマ
 シマスノミナラス天孫ノ御外祖父母ニマシマセバコレヲ皇
 祖ト申シコレヲ天祖ニ並ヘテ皇天二祖ト申シ奉ル也次ニ玉
 積産日神ハ何レノ神ニヤ知レ難シ生産日神ハ高魂神ノ兒ト
 姓氏録ニ見ユ足産日神ハ生産日神ノ御配ニヤアルラン未タ
 詳ナラス此三柱ノ神ハ皇御孫ノ命ノ大御身ヲ守リ坐スヨシ
 延喜式ニ見ユ大官賣神ハ太玉命ノ子今ノ内侍ノ如ク天祖ノ
 御前ニ侍ラヒテ善言美詞ヲ以テ君臣ノ間ヲ和ラゲ宸襟ヲ悅
 懌奉レル神ナリトイフ御饌津神ハ伊勢ニ外官アル如ク豊受

大神ニテ天皇ノ御饌ノ事ヲ掌リ事代主神ハ大己貴神ノ子ニ
 テ首ニ父神ヲス、メテ天祖ニ歸降シ此國土ヲ避退キ給ヒ諸
 神ヲ帥井テ朝廷ヲ守リ又神武天皇ノ御后ノ父神ニマシマセ
 バ何レモく歴代天皇ノ御崇敬アリシ神ヤニテマシマスナ
 リサテ今ハ皇城內ニ六十間四方ノ垣ヲ築キ環ラシ其中ニ三
 宇ノ神殿ヲ作ラセ給フ中ヲ賢所トシ右ヲ神殿トシ左ヲ皇靈
 殿トナス三殿通シテ複道アリ其左ニ神嘉殿ヲ立ツ神嘉殿ト
 申スハ古昔大内裡ノ正中ノ地ニ營マレシ中和院ニアリシ神
 殿ノ名ナリ恒例臨時ノ御祭典ヲ行ハル、所ナリ次ニ朝拜ノ
 事ハ其始ハ最モ古キコトナルヘシ其禮儀ノ盛ニ具ハリシハ
 孝德天皇大化元年正月一日ノ朝賀ヨリ多クハ唐土ノ禮ヲ用

井ラレテ其儀御即位ノ禮ニ同シカリシ也御即位ノ禮ハ神武
 天皇ノ橿原宮ニ於テ行ハセラレシ事古語拾遺ニ見ユ其後歷
 代尤モ嚴重ニ行ハレシ事也今朝拜ノ禮ハ簡易ニ改メラレテ
 小朝拜ノ古式ナドニモヤヨラレケン其禮儀嚴威莊重ナルニ
 ハアラサレトモ在位在官ノ人々夫妻相率井テ兩陛下ヲ拜シ
 奉ル様ハ上下ノ情義相浹シテイトメデタキ事ト承ル
 又按ズルニ外國ノ君ハ多ク天ヲ敬スルヲ以テ人君ノ禮儀ト
 爲シ支那ニテハ皇天上帝ヲ祭リ西洋諸國ニテハ天主ヲ祭ル
 ノ類多カレトモ我國ニハ古ヘヨリ天ヲ祭ルノ禮ナシ天ハ無
 心ノモノニテ且萬國ヲ覆フモノナレハ獨一國ノ私有ニアラ
 ス故ニ此四方拜ノ如キモ先第一ニ皇太神宮ヲ拜セラル、事

也是レ即チ我國上下民物ノ祖神ニマシマスガ故也他ノ國ヤ
 ハ人民ノ種類モ固ヨリ一ナラス其君ノ祖タル者ハ他土ヨリ
 來リテ王位ヲ奪ヒシ者ニテ其先祖ハモト卑シキ故ニ人民ヲ
 シテ之ヲ敬畏セシムベキノ實ナシ是ヲ以テ已ムヲ得ス天帝
 又ハ天主ナド無形ノ物ヲ造作シテ是ヲ假リテ其臣民ノ心ヲ
 畏服セシムル者ナリ我國ハモト他ノ外國ノ人類ト同シカラ
 ズ開闢ノ初メヨリ上一君定マリテ國ヲ開キ民ヲ生シタル
 モノナレハ我皇太神宮ノ尊クマシマス事悉ク上下民物ノ祖
 ニシテ他ニ比倫スベキモノナク天ヲ稱スルヲ待ズシテ至テ
 尊キノ極リヲ盡シ其正統ノ御子孫ノ尊キ事亦類ナケレハ民
 ノ之ヲ敬畏スル事彼無心ノ天ヲ敬スルノ比ニアラズ是其別

ニ天ヲ祭ルノ禮ナキ所以ナリ然ルヲ後世ノ學者我國ニ祭天
 ノ禮ナキヲアカヌトニヤ思フラン天御中主尊ト申シ奉ル御
 名ニツキテ是レ即チ天帝ナリ天主ナリト牽強シテ之ヲ誣奉
 ルハ大ナル謬説ニテ其實ハ深ク考ヘサルノ過ナリ若我至尊
 ナル皇太神宮ノ上ニモ尙天帝ナドイフ尊キモノアリトセバ
 恐クハ大ニ國體ノ尊ヲ害シテ皇統ヲ汚蔑シ奉ルニ至ラン實
 ニ人心ヲ亂ルヘキ僻事ナリ慎ミ戒メスンハアルベカラズ

一月三日

元始祭

元始祭ハ年ノ元始ニ賢所皇靈神殿ヲ祭ラセ給フ御式ナリ午前
 九時ニ御殿ノ裝飾ヲ爲シ大眞賢木ヲ立ツスベテ元日ノ御式ノ
 如クニテ御幣物アリ皇太子殿下ニモ御拜アリ午前十一時ヨリ
 皇太后皇后陛下ニモ御拜御玉串ヲ奉リ給フ十二時ヨリ二時マ
 テ群臣參拜スコレハ古ヘニ聞エサル御式ナレト古ヘモ毎月一日
 内侍所ノ御供
 ハア年ノ始メニ神ヲ祭ルトハ伊勢内外宮其外ニモ古ヘヨリ奉
 行セラレシコトナレハ明治ノ初メヨリ起サレテ年々ノ御式ト
 ナリシナリ

謹按ニ賢所ハモトノ内侍所ニシテ即チ温明殿ノ御事ナレハ古ヘヨリ時ヤノ御祭アリ殊ニコレヲ重セラレシ事ハ順徳天皇ノ御記ニモ詳ニ載ラレタレハ今其御文ヲ此ニ擧ゲテ其事ヲ詳ニスベシ其御文ニ曰ク凡禁中作法先神事後他事且暮敬神之叡慮無懈怠白地以神官並内侍所方不爲御跡トアリ此神事ト稱シ給フハ天祖ニ仕ヘ奉リテ天職ヲ盡シ給フ御事ナリ古事記ニ此鏡者專爲我御魂而如拜吾前伊都伎奉トアル如ク此内侍所ノ賢鏡ヲ以テ天祖ノ神トシテ崇敬給フ事ナレハ神宮内侍所ノ御方ヲハ御跡ニナサレズ又萬物隨出來必先置臺盤所棚召女官被奉或内侍參奉之云云トテ萬物ノ始メテ出來シモノハ必内侍所ニ奉ラル、事ハ此國土ニ生スル動植ノ物

悉ク天祖ノ御恩ニヨリテ生育スル物ナレハ其物ノ出ルニ隨テ之ヲ奉リテ以テ其本元ニ報イ奉ラル、也又自神代爲神鏡如神宮奉仰爲伊勢御代官被留置也神事次第同伊勢ト神代ヨリ此御鏡ヲ以テ天祖ノ御體ト仰ギ奉ラレ同牀共殿ニテマシマセシ時ニ同シク伊勢ト皇宮ト別レ給ヒテモ其敬神ノ禮ニ於テハ少シモ異ル事ナク傳給ヘルヲ申サセラル、也サレバ今日行ハル、所ノ元始祭モ亦其始メニ溯リテ國土人民ノ本ツク所ニ報セラレテ萬世無窮ニ傳ヘサセ給ハントノ深義アルナルベシ又今モ十二月十五日賢所並皇靈神殿ニ於テ御神樂アリ天皇陛下ニモ出御アリテ御拜アリ御告文ヲ奏シ給ヒ皇后皇太后皇太子ニモ同シク御拜アリテ後ニ御神樂ヲ供

セラル是古昔内侍所御神樂ノ御式ニ遵ハセラル、所ナルベシ

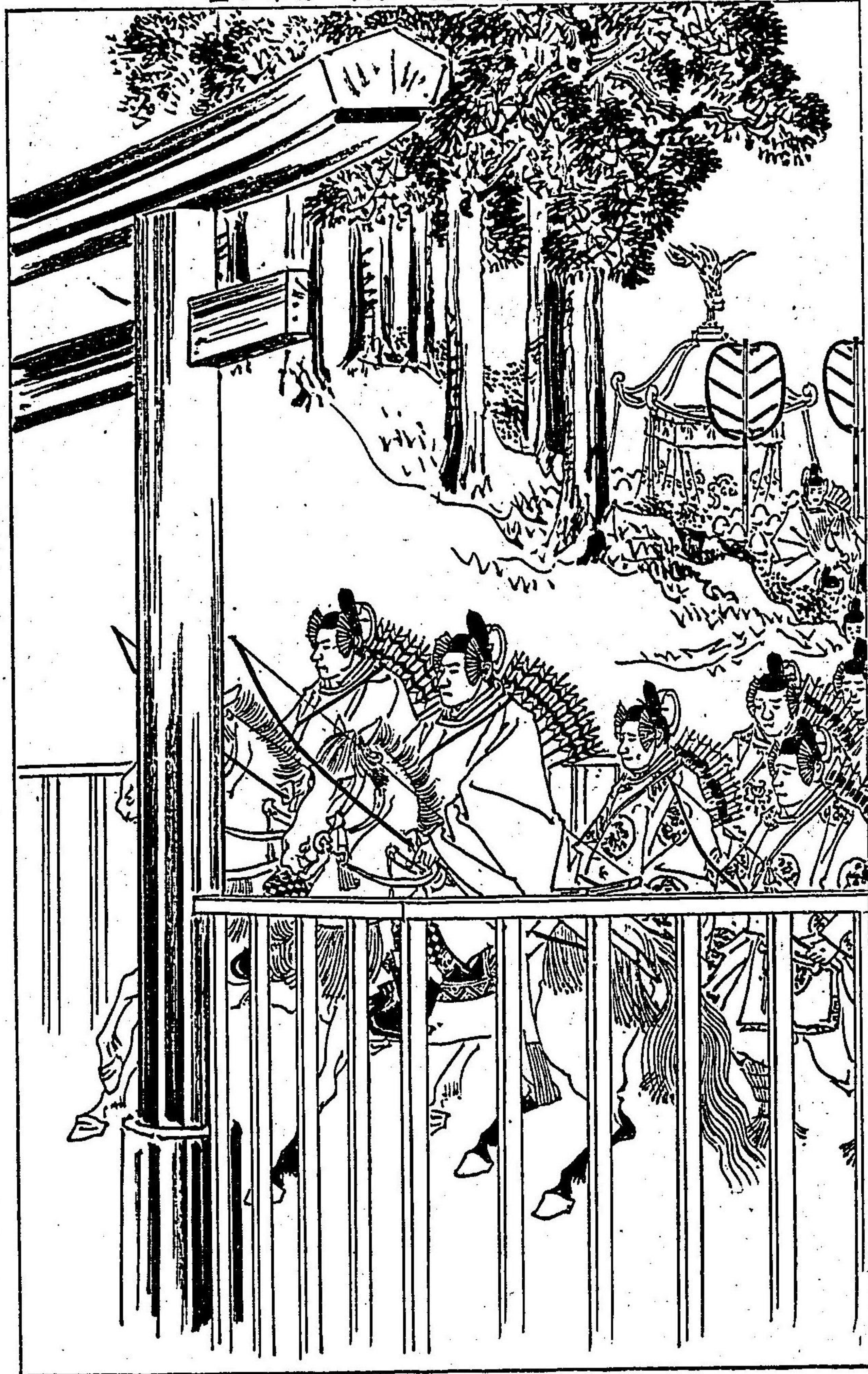
一月三十日

孝明天皇祭

孝明天皇ノ御祭式ハスベテ皇靈祭ノ御式ニ同シ此外歴世ノ天皇ヲモ百年五十年毎ニ其御忌日ヲ以テ御親祭アラセラル、御事ナリ

謹按ニ 孝明天皇ト申奉ルハ我 天皇陛下ノ御父君ニマシマシテ 仁孝天皇第四ノ皇子御母ハ新待賢門院藤原雅子贈左大臣實光公女天保二年六月十四日御降誕同六年九月十八日立親王同十一年三月十四日立太子同十五年二月廿七日御元服弘化三年二月六日實正月二日仁孝天皇崩御二月十三日踐祚

孝明天皇御幸山男爲祈禱新夷圖



孝明天皇祭

十八

御年十六同四年九月二十三日御即位明年嘉永ト改元アリ御
 在位二十一年ニシテ慶應二年十二月廿五日崩御御年三十七
 同三年正月廿五日泉涌寺後山ニ葬リ奉ル後月輪東山陵ト稱
 ス此 天皇ハ 神武天皇ヨリ一百二十一代御宇ノ 天皇ニ
 マシマシテ徳川家康慶長八年ニ征夷大將軍ニ任シテヨリ是
 ニ至テ二百三十年其十四世徳川家茂ノ在職ニ當リ幕府ノ政
 衰ヘ武備廢弛セシニ會外國ノ請求拒ミ難ク大ニ交市ヲ開キ
 テヨリ人心安カラス上下ノ議論紛々タル有様ナリシカバ
 天皇深ク天下ノ安危人民ノ休戚ニ御心ヲ勞セラレシバ
 家茂ヲ召シテ親勅アリ其事悉ク行ハル、ニ至ラスト雖モ遂
 ニ明治中興ノ原ヲ開カセ給ヒシハ誠ニ此上ナキ御大德ナリ

孝明天皇祭

十九

歴代ノ 聖上イヅレモ、此人民ノ爲ニ御心ヲ勞セサセ給フ中ニモ殊ニ深ク御仁心モアラセラレ人民モ悉ク懐ニ服シテ遂ニ七百餘年ノ久シキ朝家ノ御衰ヘシヲモ昔ノ隆ナル御世ニ復サセ給フ御事ナレハ誠ニ有リカタキ中興ノ聖主ト仰キ奉ラシモ中々オロカナルヲナルベシ猶其御徳業ノ宏大ナルヲハ歴史ニユツリテ今具ニ之ヲ舉ケス畢竟明治復古ノ御大業ハ 今上天皇ニ至リテ之ヲ大成サセ給ヒタレトモ其始ヲ開カセラレシハ偏ニ此 天皇ノ御心ニマシマス也

二月十一日

紀元節

紀元節トハ今ヨ距ルヲ二千五百五十一年ノ古 神武天皇ノ中國ニ遷御アリテ大和國橿原宮ニ於テ御即位ノ禮ヲ舉ラレ新ニ元年ヲ紀シ給ヒシ日ナレハコレヲ紀元節ト稱スル也其御祭典ノ次第ハ午前第八時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大具賢木恒ノ如シ次ニ式部職官員着床次ニ開扉此間奏樂次ニ神饌ヲ供ス此間奏樂次ニ祝詞次ニ神饌ヲ撤ス此間奏樂次ニ閉扉此間奏樂次ニ各退出ス御親祭ノ次第ハ午前第九時宮内省官員着床次ニ開扉此間奏樂次ニ神饌及ヒ御幣物ヲ供ス此間奏樂同第十時王臣着床出御帛御次ニ御玉串ヲ奉リ給ヒ 御拜御告文

ヲ奏シ給フ次ニ賢所御拜御鈴帶ノ如シ畢リテ入御御拜ノ諸員起ッ次ニ皇太子殿下御拜次ニ王臣拜禮次ニ御幣物及ヒ神饌ヲ撤ス此間奏樂次ニ閉扉此間奏樂次ニ各退出ス同第十一時ヨリ皇太后宮皇后宮陛下御玉串ヲ奉リ給フ夕次第ハ總テ朝御次第ノ如ク午後第五時ヨリ行ハル

謹按ルニ上古天祖ノ御世ニハ西方ノ國々稍開ケ初メテ其近鄰ナル支那朝鮮等ノ地モ同シク盛ニ開ケタル時ナレハ天孫モ西陲ニ行幸アラセラレ都ヲ西州ニ定メテ之ガ防備ヲモ虞給ヒケン然ルニ其後數百年ヲ經テ東方皇化ニ服セザル者出來テ平カナラサリシカバ神武天皇復西州ヨリ中國ニ向ハセ給ヒテ大倭國ニ討入り地方所在ノ豪酋ヲ服從シ給ヒ

シヨリ今ニ至テ二千五百餘年皇位ノ尊儼然トシテ動キナク世ニハ治亂盛衰ノ故ナキニアラスト雖モ皇家ノ尊嚴ナルヲ未嘗テ一毫ノ虧損アラズ傳ヘテ百二十有餘世ノ多キニ至リ向後猶億萬年無窮ニ傳ヘサセ給フベキ御事ハ諸外國ニモ絶テ比倫ナキ誠ニメデタキ御事ニシアレハ臣民タラン者ハ有生ノ始ヨリ已レク先祖代々其洪澤深恩ニヨリテ今日ノ我身ニ至ルマテ安穩無事ニ繼續シ來リタルハコレ全ク歴朝ノ皇恩ニヨルヲ一刻モ忘却スヘカラス深ク肝膽ニ銘シテ益々力メテ國ノ爲ニ心力ヲ盡シ此身ヲ捨テ、聊モ私ヲ顧ミズ只管ニ天壤無究ノ皇運ヲ扶翼シ奉ランヲ思フベキ也是我臣民タル者第一ノ大義本分ナリト心得ベシ若シ聊

ガモ此御恩ヲ疎略ニシ他ノ外國ニ向テ臣服卑屈スル者アラ
シニハ臣民擧ケテ之ヲ誅スベキヲ論スルマテモナシ

三月二十一日

春季皇靈祭

春分秋分ノ二節ハ歳ノ内ニテ晝夜平分ノ時ナレバイツハアレ
ト殊ニ此二節ヲ以テ歴代 天皇ノ皇靈ヲ祭ラセ給フ也其御式
ノ次第ハ先ツ朝ノ次第午前九時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大具實木
恒ノ如ク
次ニ式部職官員着床次ニ開扉此間奏樂次ニ神饌ヲ供ス此間奏樂次ニ祝詞
次ニ神饌ヲ撤ス此間奏樂次ニ閉扉此間奏樂次ニ各退出ス次ニ皇靈並ニ神
殿御親祭アリ午前九時三十分宮内省官員着床次ニ開扉此間
奏樂次ニ神饌及ヒ御幣物ヲ供ス此間奏樂十時王臣着床次ニ出御皇
靈へ御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ次ニ神殿へ御玉



春季皇靈祭

申ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給ヒ畢テ入御御拜ノ間着床次ニ
 皇太子殿下御拜アリ此ヨリ先キ式部官御休所ヨリ御誘引此時着床ノ諸員起ツ次ニ王
 臣拜禮次ニ東遊次ニ此間奏樂次ニ閉扉前此間奏樂次ニ各退出同十一時三十
 分神饌ヲ撤ス次ニ開扉前皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給
 フ次ニ皇后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間着床ノ諸員起
 ヲ正午十二時ヨリ二時マデ王臣參拜次ニ閉扉前次ニ各退出午
 後四時夕ノ次第アリ次第總テ朝ノ御式ニ同シ
 謹按ニ我ニ神國御世々ヤノ天皇陛下ノ常ニ民ヲ安ンシ國
 ヲ治ルヲ以テ天日繼ノ御業ノ第一急務ト爲シ給ヒシハコ
 ノ民ハ天祖ヨリウケサセ給ヘル大御寶ニシテ此土ハ天

神ノ開キ給ヘル大御國ナレハコレヲ守リコレヲ安ンジ給ハ
 ントテ御心ヲ盡サセラル、事一日一刻モ怠ラセ給ハ又御
 事也故ニ一十餘世ノ多キ此國此民ノ爲ニ御心ヲ盡サセ給ハ
 ザル 天皇陛下ハ御一世モマシマサズタマ〜天下ノ亂レ
 タルヲアルモ皆是臣下ノ輔翼道ヲ失ヒテ人民ノ怨苦ヲ來セ
 シヨリ起リシ事ニテ君德ニ於テハイツレモ議シ奉ルヘキ
 所ナシコレヲ他ノ外國ノ君長ノ恒ニ其民ヲ虐使苦惱セシム
 ル者ニ比ベテハ誠ニ天淵ノ違ヒアリ然レバ其國ヲ安ンジ民
 ヲ治メ給フ御心ノ至リニハ又深ク 天祖天孫ノ此世ノ初メ
 ニアリテ此國ヲ開キ此民ヲ生シ給ヒシヨリ歷代ノ 天皇其
 德ヲ繼ギ給ヒテ深ク此國此民ノ爲ニ御心ヲ盡サセ給ヒ 天

業ヲ恢弘シテ今日ニ至ラセラレタル御恩德ヲ報セントスル
 大御心モ厚ク且ツ萬民ノ上ニ報スル誠ヲモ 天皇陛下ノ御
 一身ニ引受サセ給ヒテ今日時節ヲ以テ御祭典アラセラル、
 御事也サレバ是實ニ一國萬民ノ 天祖ニ報イ奉ル誠ノ心ヲ
 聚メテ之ヲ 天祖天孫ニ致サセ給フ御祭ナルベシ然レハ吾
 國ノ民タラン者一刻モ此義ヲ忘ルヘキニ非ス抑モ〜我國
 ノ東海ノ表ニ屹立シテ未嘗テ四外ノ侮ヲ受サルコトモ亦是歷
 代 聖主ノ剛明仁武ニマシマスト臣民ノ義勇忠節ナルトノ
 致ス所ナレハ是レ亦深ク思フテ忘ルマシキト也且又 天皇
 ノ寶位天地ト與ニ動キナク德光日月ト共ニ明カニシテ六合
 ニ照徹シ玉ヒ今日ニ至テ乾坤ノ位正シク反覆顛倒ノ例ナキ

故ニユソ人民モ各其分ニ安ンシ限リヲ守リ世ヤノ祖業ヲツ
 トメテ共ニ安泰和平ニ世ヲ渡リ來リタレ若シ此天統ヲシテ
 シバく變易スルモノトセバ天地モ其位ヲ保タズ萬物モ生
 育ヲ遂ルコトヲ得ス萬法皆斃レテ幾許ノ戰亂鬪争ノアルベキ
 コナルニ左ハアラスシテ今日ニ至ルマテ他ノ國ヤニ比倫ナ
 ク治日ノミ常ニ多クシテ亂日ノ甚少ナキ事ハ誠ニ有リガタ
 キコナリ抑是レ上古ニ天祖ノ極ヲ立テ統ヲ垂レサセ給フ
 忠孝ノ二教ノ人心ニ浸染固結シタル故ニ由レリトハ申シナ
 ガラ代々天皇ノ仁明勇武ニシテ此國土人民ヲ愛養シ給フ
 政教ノマスく隆盛ニシテ永久天祖ノ御祖ノ御心ヲ體シ
 給ヒテ失ハズ以テ此國人ヲ撫安シ給フ御徳功ニヨルコナ

レハ人タラン者ハカヘスくモ此事ヲ忘レズ我子孫ノ安寧
 ヲ求メントスル者ハ又必我子孫ヲシテ忠孝ノ務ヲ怠ラス心
 ヲ盡シテ此萬代ノ皇運ヲ守リ奉ラン事ヲ思フベシ是則歷
 代ノ大恩ニ報シ奉ル所以ナリ又我子孫萬世ノ安泰ヲハカル
 所以ナリ

四月三日

神武天皇祭

今日ハ 神武天皇崩御ノ日ニ當レバ 遠御祖ノ此中國ヲ統一シ
 テ此國土人民ヲ治安シ給フ御徳業ノ始メヲ本ツケラレテ此御
 祭典ハアルコナリ其御式ハスベテ皇靈祭ニ同シ
 謹按スルニ上古 天祖天孫ヨリ今ノ 天皇陛下ニ至ラセ給
 フマテ既ニ百世ヲ隔テ給ヒテモ其繼統謬ルコナク正シク傳
 ヘサセ給ヘハ其御血脈一氣貫通シテ全ク親シキ御父子ト異
 ナルコマシマサス故ニ古ヘヨリ 遠キ御先祖ヲモ皇睦御親ト
 申シ奉リ遠御子孫モ天孫皇御子尊トタヘ奉リテ互ニ親シ

神武天皇御國中平定シ給フ圖



敬ミ慈ミ給フ一毫ノ間隙アルコトナシ是レ今日 天皇陛下
 ノ 神武天皇ヲ祭ラセ給フ御心ハ即チ其親父母ノ御膝下ニ
 愛敬ノ誠ヲ盡サセ給フニ異ナルコトナシ誠ニ忝ナキ御事也他
 ノ外國ノ王共ノ如キハタマ〜其祖ノ祭リヲナストモ其祖
 ハ卑シキ民ノ智力アルマ、ニ人ノ國ヲ奪ヒタル兇人カ又ハ
 他ノ國々ヨリ流落シ來リタル浮浪ノ民ニシテ其本國開闢ノ
 始メヨリ統ヲ傳ヘタル正シキ君主ニハアラズ我 天皇陛下
 ノ此臣民ト共ニ同一氣ノ子孫ニシテ其祖ヲ祭ル如キノ感情
 ハナキコトナリ之ヲ思ハ、我君臣ノ情義ノ他ノ國々ノ君民ト
 ハ甚異ナルコトヲ知ルベシ抑モ此 天皇ノ後ノ御謚ヲ神武ト
 申シ奉ルニツキテハ古ヘヨリ我國ノ上下古今ニ亘リテ最勇

武ヲ尙フ事ヲ思フベシ且此 天皇ノ御後ニモ 天武天皇
 桓武天皇 文武天皇ナドイヅレモ御心ヲ武備ニ用井サセ給
 ヒテ國輝ヲ四方ニ耀シ威徳ヲ中外ニ施サンコトヲ思食シタル
 御事ハ今更稱ヘ奉ルマテモナク四鄰ノ國々支那ノ如キ強大
 ナル國々モ我日本ノ勇武ヲ畏レ憚リテ未嘗テ侵侮ノ念ヲ生
 ゼズタマ〜來リ犯ス者アレハ皆打破ラレテ彼蒙古ノ如キ
 ハ十萬ノ師還ル者僅ニ三人トイフニ至ル其他我國人ノ他國
 ニ勇威ヲ振ヒタルコト多ケレ他ノ國人ノ我ニ向テ志ヲ得
 タル者ハアラス是其故如何トナレバ古ヘヨリ勇武ヲ尙ヒ義
 烈ヲ唱ヒテ人民常ニ卑怯弱劣ヲ以テ恥辱トセシ風俗ナリシ
 ガ故ナリ是レ亦上古天神ノ劍鋒ノ用ニヨリテ此俗習ヲ馴致

シ給ヒシ故トハ申ナガラソモく又人民ノ勇ニシテ義ヲ好ムガ致ス所ナリヨリテハ此 天皇ノ昔武徳ヲ以テ四海ヲ統一ニシ給ヒシヨリ其後數千年ノ今日マテモ他ノ國ヤマテモ威服セシメタル其功徳ノヨル所ヲ思ヒテ人民各々勇ヲ尙ビ義ヲ磨キテ上古ヨリ傳ヘ來リタル勇武ノ名ヲ失フベカラスコレ亦深ク此 天皇陛下ノ御恩ニ報スル所以ナルベシ

九月二十三日

秋季皇靈祭

御式總テ春季ニ同シ

十月十七日

神嘗祭

今日ハ 伊勢神宮ニ於テ新穀ヲ供シ祭典アリ預メ勅使ヲ發遣セラレテ幣帛ヲ捧ゲラレ又宮中ニ於テモ 天皇陛下ノ御遙拜アリ其御式ハ午前九時神嘉殿ノ南庇ニ四尺ノ御屏風二雙ヲ立廻ラシ其内ニ簀薦二枚ヲ敷キ上ニ御坐ヲ設ク次ニ宮内省官員

シ給ヒシ故トハ申ナガラソモく又人民ノ勇ニシテ義ヲ好
 ムガ致ス所ナリヨリテハ此 天皇ノ昔武徳ヲ以テ四海ヲ統
 一ニシ給ヒシヨリ其後數千年ノ今日マテモ他ノ國ヤマテモ
 威服セシメタル其功德ノヨル所ヲ思ヒテ人民各々勇ヲ尙ビ
 義ヲ磨キテ上古ヨリ傳ヘ來リタル勇武ノ名ヲ失フベカラズ
 コレ亦深ク此 天皇陛下ノ御恩ニ報スル所以ナルベシ

九月二十三日

秋季皇靈祭

御式總テ春季ニ同シ

十月十七日

神嘗祭

今日ハ 伊勢神宮ニ於テ新穀ヲ供シ祭典アリ預メ勅使ヲ發遣
 セラレテ幣帛ヲ捧ゲラレ又宮中ニ於テモ 天皇陛下ノ御遙拜
 アリ其御式ハ午前九時神嘉殿ノ南庇ニ四尺ノ御屏風二雙ヲ立
 廻ラシ其内ニ簀薦二枚ヲ敷キ上ニ御坐ヲ設ク次ニ宮内省官員

便宜ノ所ニ候ヌ十時出御御遙拜畢リテ入御是時 皇太后陛下
 皇后陛下便殿ニ於テ御遙拜アリ 皇太子殿下御代拜便殿ニ
 於テ奉仕ス御遙拜ノ次第畢リテ賢所御親祭アリ其儀午前九時
 賢所御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大具賢木次ニ宮内省官員着床次ニ開
 扉次ニ神饌ヲ供ス此間奏樂アリ同十時親王及ヒ勅任以上着床
 次ニ出御御玉串ヲ奉リ給ヒ御拜御告文ヲ奏シ給フ御鈴恒ノ如ク
 又御拜ノ間着
 床ノ諸員起ツ畢リテ入御次ニ親王及勅任以上拜禮次ニ宮内省官員拜禮
 次ニ神饌ヲ撤シ次ニ閉扉此間奏樂次ニ各退出同第十一時 皇太后
 陛下及皇后陛下 皇太子殿下御拜アリ其儀先ツ宮内省官員着
 床次ニ開扉次ニ 皇太后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給ヒ次ニ 皇
 后陛下御拜御玉串ヲ奉リ給フ御拜ノ間着床ノ諸員起ツ次ニ

皇太子殿下御代拜御玉串ヲ捧ゲ奉ル同十二時ヨリ午後二時マ
 デ百官拜禮次ニ閉扉次ニ各退出ス

謹按ニ伊勢 皇太神宮ノ御事ハ當初 天祖ノ詔勅ノマニ
 マニ同牀共殿ニマシテアリシヲ崇神天皇ノ御時ニ倭笠
 縫村ニウツサレ 垂仁天皇ノ御世ニハ之ヲ鎮坐スベキ地ヲ
 擇ヒテ伊賀近江美濃ヲ經テ伊勢ノ今ノ地ニ至リ給フ時ニ猿
 田彦命ノ裔太玉命參リテ伊鈴川上ニ好所アリト奏セシカバ
 此所ニ宮居ヲ定メサセ給ヒシナリ相殿ノ神二座マシマス其
 天祖ノ御神體ハ即チ 天祖ノ親ヲ 天孫ニ授ケサセ給ヒ
 シ三種神器ノ一ナル八咫ノ御鏡ニシテ視此寶鏡當猶視吾ト
 宣ハセ給ヒ御形ヲウツサレシ鏡ナレハ此歷世ノ御子孫ニマ

シマス 天皇陛下ノ御影ノ御鏡ニウツラセ給フ時ハ千秋萬
 歳ノ後マデモ 天祖ノ御形ハ永ク此鏡中ニマシマスイハレ
 ナリカ、ルメデタキ神勅ノ今ノ世マテ徴アリテ千萬世一系
 ニマシマス事誠ニアリカタキ例ナルベシサテ今日先ツ新穀
 ヲ 皇太神宮ニ捧ゲラル、ハ上古 天祖ノ嘉穀ノ種ヲ得サ
 セ給ヒテ之ヲ蒼生ノ食ト定メサセラレ天下ニ播殖シ給ヒシ
 ニヨリテ萬億ノ民此食ヲ食シ此生ヲ保チテカクバカリ安ラ
 カニ平ケク世ヲ送ルヲナレハ其御恩ニ報スル誠ノ心ヲモ
 天皇陛下ノ御身ニ引受ケサセ給ヒテコレヲ 神明ニ饗祭セ
 サセ給フ御事ナルベシ他ノ國々ノ民ハ或ハ腥血ヲ飲ミ獸肉
 ヲ食シテ以テ其生ヲ養フモノモアレトモ其ハ他ノ動物ヲ殺

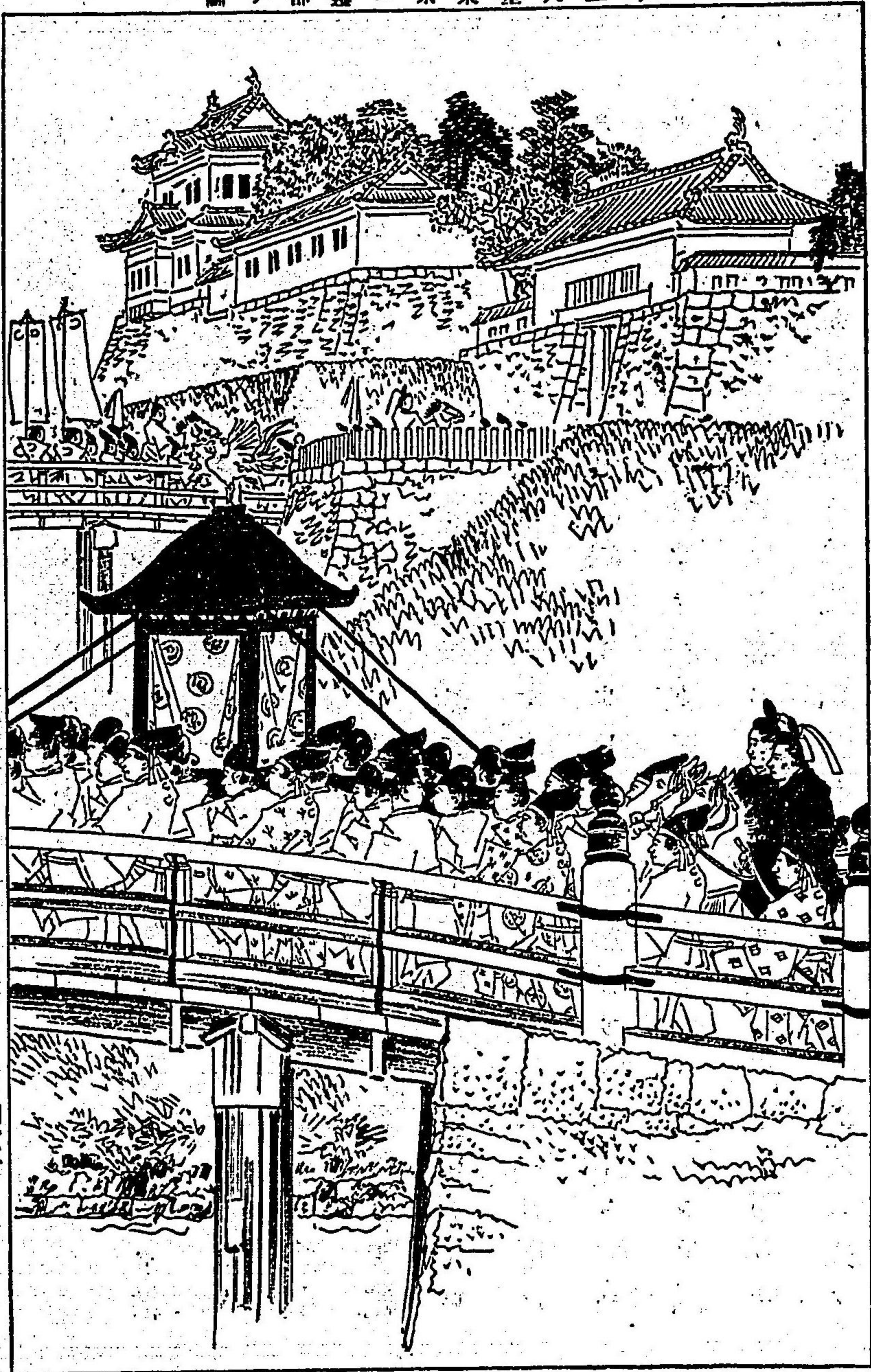
シテ我生命ヲ養フ者ニテ動物ツキヌレハ我モ亦飢渴スルノ
 患アリ穀物ノ如キハ直ニ我力ニヨリテ耕作シテ其得ル所ヲ
 食スル者ナレバ眞ニ自力ニ食スル者ニテ凡食物中コレ程便
 ヲク且ツ宜シキモノアルヲナシ殊ニ我國土ノ尤此物ノ生育
 ニ適スルヲ慮ラセ給ヒテコレヲ以テ民食ト定メサセ給ヘ
 ルヲハ誠ニ仁徳ノ周到精密ナルヲニテ其神算ノ遠ク大ナル
 ヲナカク申スモオロカナナルヲナルベシコレヲ思ヒ彼ヲ思
 フニ付テモユメク神恩ノ大ナルヲ忘レズイヨク生業
 ヲ勵ミテ此ノ御恩ニ報スルヲ忘ルベカラズ

十一月三日

天長節

是日ハ我 天皇陛下ノ御降誕アラセラレシ吉日ナレハ之ヲ天
 長節ト稱シテ凡天ケ下ノ民草悉ク之ヲ賀祝シ奉リ其萬壽無疆
 ヲ祈リ奉ル日也宮中ニ於テモ御祭典アリ其御次第本日早旦御
 殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大具賢木恒ノ如シ午前九時宮内省官員着床次ニ開扉
 三前此 次ニ神饌ヲ供ス此間 奏樂次ニ祝詞次ニ 天皇陛下御代拜御玉
 串ヲ捧ク次ニ 皇太后陛下御代拜次ニ 皇后陛下御代拜次ニ
 皇太子殿下御代拜何レモ御玉串ヲ捧ク次ニ宮内省官員拜禮
 次ニ神饌ヲ徹ス此間 奏樂次ニ閉扉此間 奏樂次ニ各退出ス是日觀兵式アリ

今上天皇東京へ遷都ノ圖



天皇臨御軍隊ノ整列進退ヲ御覽セララル
 謹按ニ天長トハ天地ノ如ク長ク久シク窮リナク疆リナク世
 ニ照シマシマサンコヲ祝ヒ奉ル意ニテカク名ツケ奉リタル
 ナルベシ古ヘ光仁天皇ノ御時ニ天長節ノ名アリ是亦 天皇
 ノ御生日ナリ其後ハ絶エタリシヲ明治ノ初ニ再興アリテ之
 ヲ定禮トセラレ天下ノ臣民悉ク祝賀シ奉ルコトナレリコレ
 ハ隨唐ノ國ニモ亦西洋ノ國ヤニモアルコト也トイヘバ人臣タ
 ル者ノ其君ヲ祝フ誠心ハイツレノ國モ遠カラサルコト覺ユ
 ルナリサレド他ノ國ヤノ君ト民トハモト別種ノ人ニシテ或
 ハ他國人ノ來リテ我國ヲ奪ヒタルモアリ或ハモト臣下タル
 賤民ノ君長ヲ亡ボシテ之ヲ掠メ取りタルモアリテ皆我國ノ

如ク天地開闢ノ初ヨリ定リタル同一種ナル君上ニマシマス
 ニハアラス大ニ徑庭アルコトナリサレバ各國ノ民ハ今日ノ君
 ト先祖ノ君トハ異ニシテ先祖ハモトヨリ今日ノ君ノ臣下ニ
 アラザル者多ク故ニ忠孝ノ心一致ナルコト得ズ我人民ノ先
 祖ヨリ數千年只一系ノ君ニ事ヘシ者トハ其感情モ必同カラ
 スソモ、此國ニ生レシ人民ノ此國ノ 天皇ニ事ヘ奉リテ
 此國ヲ守リ奉ルヘキハイフマデモナキコトナガラ殊ニ我國民
 ハ前ニイヘル如ク先祖ヨリ我身マデカハルコトナク萬民同シ
 ク共ニ此一皇家ニ事ヘ奉リシ民ナレハ今日 天皇陛下ノ萬
 壽無疆ヲ祝シ奉ルニツキテモ猶以テ心カヲ盡シテ此國ヲ守
 護シ奉リテ天壤無究ノ 皇運ヲ扶翼シ奉ルベキ心モ亦必深

ガルベキ理ナリサテ今日ノ聖節ヲ祝シ奉ラル、ニ付テモ四
 疆ノ守リ怠ルベカラス強鄰ノ備忽ニスベカラズトアリテニ
 ヤ殊ニ觀兵ノ式ヲ行ハレ臨御アリテ其戎装ノイサマシク其
 進退ノ整ヘル様ヲ御覽アルコトナリ今ヤ東西洋通航ノ便モ大
 ニ開ケタル上ニハ宇内ノ大國モ比鄰ニ異ナラサレハ其國々
 ノ中ニハ兇悍貪戾ナルモノアリテ竊ニ窺窺ノ念ヲ懷クモノ
 ナキニ非ス此時ニ當リテ我防遏ノ備或ハ密ナラザル所アレ
 バ其間ニ乘シテ侵軼シ來ルモノアランモハカリガタシコレ
 今日ノメデタキ祝賀ニツキテモ猶亦不虞ノ警戒ヲ忘レサセ
 玉ハザル 聖慮ノ程カシコシト申スモナカクナリ人民モ
 亦宜シク此 御心ヲ心トシテ常ニ勇武ノ氣ヲ養ヒ一旦緩急

アラハ身ヲ捨義ヲ守リテ國ニ殉フルノ節ヲ立テンコトヲ思フ
 ベシ

十一月二十三日

新嘗祭

本日ハ本年ノ新穀皆熟シタルヲ以テ 天皇陛下親シク之ヲ
 皇太神宮ニス、メ給ヒ又御親モ嘗サセ給フ御祭ニテ古ヨリ殊
 ニ重セラル、大典ナリ前日ニ鎮魂祭アリ其御式ハ午後四時賢
 所便殿ニ於テ御神座以下ヲ裝飾ス五時掌典長以下手水ノ儀ア
 リ掌典補之ヲ勤仕ス次ニ掌典長以下祓ノ所ニ立ツ次ニ掌典補祓ノ詞ヲ讀
 ミ訖リテ榊ノ枝ヲ執リテ祓フ是ヨリ先キ宮内省勅奏任官南庇北面ニ着床俗人同東面ニ着床ス次ニ掌
 典長齋殿ノ東上南面掌典同補等順次着床次ニ神降シ此間諸官次員起ツ
 ニ安知女ノ曲ヲ奏ス次ニ八代物ヲ供へ奉ル此間神樂次ニ神饌ヲ歌ヲ奏ス

供へ奉ル前此間神樂歌ヲ奏ス次ニ掌典長齋殿ニ昇リ祝詞ヲ奏
 シ畢リテ掖座ニ着ク此間諸官次員起ツ次ニ掌典絲結ノ座ニ着ク次ニ御衣
 並御玉緒渡御殿上ノ儀ニ付御衣等ノ御筥辛櫃ニ納メヌ掌典手
 ツカラ直ニ齋殿ノ案上ニ奉安ス此間警蹕諸官員起ツ掌典長掌
 典面伏ス次ニ掌典長以下八開手ヲ拍ツ四段每段八度掌典補之ヲ催
 ス次ニ内掌典進テ宇氣槽ニ昇ル次ニ掌典補齋殿前後ノ幔ヲ垂
 ル掌典絲結ヲ奉仕ス結内掌典銚ヲ執リテ宇氣槽ヲ衝ク十度
 畢リテ御玉緒ヲ御筥ニ納ム掌典補前幔ヲ褰ク掌典齋殿ニ進ミ
 御衣筥ヲ執テ蓋ヲ開キ神前ニ向ヒ振動十度訖リテ本ノ所ニ納
 メ置キ奉ル此間神樂歌ヲ奏ス次ニ御衣並ニ御玉緒入御此時警
 蹕諸官員起ツ次ニ皇太后陛下御衣並ニ御玉緒渡御此時警蹕諸

官員起ツ次ニ掌典御衣等ノ筥ヲ齋殿ノ案上ニ奉安以下振動同
 上此間神樂歌ヲ奏ス次ニ御衣等入御此時警蹕諸官員起ツ次ニ
 皇后陛下御衣並ニ御玉緒渡御以下入御ニ至ルマテノ式總テ
 上ニ同シ次ニ皇太子殿下御衣並ニ御玉緒渡御御式總テ上ニ
 同シ次ニ掌典掖座ニ復シ掌典補後幔ヲ褰ク次ニ掌典復床次ニ
 大直歌次ニ掌典長再拜諸官員之ニ應ズ次ニ倭舞アリ次ニ掌典
 長以下手ヲ拍ツ初ノ如シ次ニ掌典長復床次ニ神饌ヲ撤シ次
 ニ八代物ヲ撤ス此間神樂歌ヲ奏ス次ニ神昇リ此間諸官員起ツ
 次ニ各退出ス新嘗祭ノ御式夕ノ次第曉ノ次第ノ二アリ夕ノ
 次第ハ二十三日午後二時神殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス四時宮内省官
 員着床次ニ掌典掌典補ヲ率テ御神座ヲ設ク次ニ掌典寢具ヲ御

神座ノ上ニ供ス供シ畢リテ掌典長之ヲ檢ス次ニ掌典長祝詞ヲ
 申ス同五時四十分掌典掌典補ヲ率テ忌火ノ御燈ヲ神殿ノ四隅
 ニ點ス是時各處ニ庭燎ヲ點ス六時便殿ヲ出御アリ親王及ヒ勅
 任官着床次ニ出御侍從劍璽ヲ奉シ侍從長式部長等前行シ侍從
 二人御左右ニ燭ヲ執ル次ニ隔殿ノ御座ニ着御侍從劍璽ヲ案上
 ニ奉安シ侍從長式部長侍從等並ニ隔殿ノ庇ノ坐ニ候ス次ニ神
 饌行立次ニ警蹕此時親王以下着床ノ諸員起伶人神樂歌ヲ奏ス
 次ニ神殿ノ御座ニ着御此後式部長掌典長東
隔殿ノ坐ニ着シ次ニ御手水次ニ御供進
 次ニ御告文ヲ奏シ給フ次ニ御直會次ニ神饌ヲ撤ス次ニ御手水
 次ニ行立次ニ退下次ニ親王及ヒ勅任官以上庭上ニ於テ拜禮次
 ニ宮内省奏任官判任官庭上ニ於テ拜禮次ニ隔殿へ出御此間侍

從劔璽ヲ奉シテ戶外ニ候ス次ニ還御供奉初ノ儀ノ如シ曉ノ次
 第ハ二十四日午前第一時掌典長神座以下ヲ檢ス以下ノ御式總
 テ夕ノ次第ニ同シ

謹案ニ人民ノ平素常食トシテ生命ヲツナグベキ嘉穀ノ種ハ
 皇太神宮ノ種サセ給フ所ニシテ又其常ニ服シテ以テ寒暑
 ヲ凌ク所ノ衣服ノ原モ亦 皇太神宮ノ教サセ給フ所ナリ又
 天孫ノ降ラセ給フ時ニモ齋庭ノ穗ヲ授ケ給ヒテコレヲ以
 テ人民ノ養フベキ物トナサセ給ヘリ是ヨリ後ハ天下ノ政事
 ニモ尤民ノ食ヲ重シ給ヒテ民ヲシテ凶年ニモ飢餓ノ患ナ
 カラシムルヲ以テ天業ノ急務トナサセ給ヘリ故ニ年ノ初メ
 ニ祈年祭アリテ四時順序年穀豐熟センコトヲ祈ラセ給ヒ又今

日人民ノ作り出セシ新穀ヲ以テ之ヲ 天祖諸神ニ供シ給フ
 ハ即チ其上古起原ノ大恩ニ報シ給フ大事ノ祭典ナレバ年々
 ニ之ヲ行ハセラル、ノミナラズ歷代ノ 天皇御即位ノ年ニ
 ハ必大嘗祭トテ大禮ヲ行ハセラル、ナリ其御禮式ハ悉ク神
 世ヨリ傳來固有セル禮ニ依遵セラレテ一ツモ他國ノ禮ヲ交
 ヘラレスサレバ我國ノ禮式ニシテ此祭典ノ如ク尤古クシテ
 尤正シキハナシ其義ヲ論シ其禮ヲ講センニハ深微精妙ノ理
 中々筆舌ノヨクツクス所ニアラズサテ又歷代 天皇ノ 天
 祖ニ事ヘ奉ラル、御孝道ト申スハ全ク此國土ヲ守リ此人民
 ヲ安シ給フヨリ重キハナク億兆人民ノ 陛下ニ事ヘ奉ル
 忠義ノ道ト云フハ此國土ヲ守リ此皇運ヲ扶ケ奉ルヨリ急ナ

ルハナシ是則チ上ハ 天祖ノ御恩德ニ報シ奉リテ下ハ子孫
 ノ安寧ヲハカル所以ナリ是其上下君臣父子祖孫ノ心ノ誠ヨ
 リ成立シテ互ニ相感スル心ノ切至ナル者直ニ顯レテ此禮典
 トナリ此儀節ト爲ル者ナレバ其意義ノ完美ナルヲ又萬國ニ
 比倫アルベシトモ覺エズ凡我國ノ人々各吾誠衷ニ省ミテヨ
 ク〜此義ヲ尋思研究セバマス〜其義ノ精微ニシテ規模
 ノ宏遠ナルヲ悟リツベシ他國ニハ種々ノ佳麗壯大ナル禮
 儀モアリテ人目ヲ駭カシ一世ヲ鼓動スルホドノモノモナキ
 ニハ非レトモ其君臣ノ位屢々變易シテ定マラス其人民ノ種
 類ハ混淆シテ一ナラザレバ精神心術ノ誠ニ至テハ皆乖離渙
 散シテ固結純一ノ様子ナシイカデカ我國ノ誠心感徹ノ深キ

ヨリ盈チ溢レタル禮儀文物ノ端莊嚴肅ナルニ及フベキヤ是
 人民ノ尤深ク思ヒヲ致スヘキ所ニシテ一日モ忘却スヘカラ
 ザル大事也此書ヲ讀ム者モ深ク此旨ヲ思フヘキ也

大祭祝日義解畢

明治二十四年八月十四日印刷
明治二十四年八月廿五日出版

正價金拾錢

著者 內藤 耻叟

發行兼印刷者

發兌元

大橋新太郎

博文館

日本橋區本石町三丁目十六番地

日本橋區本石町三丁目十六番地



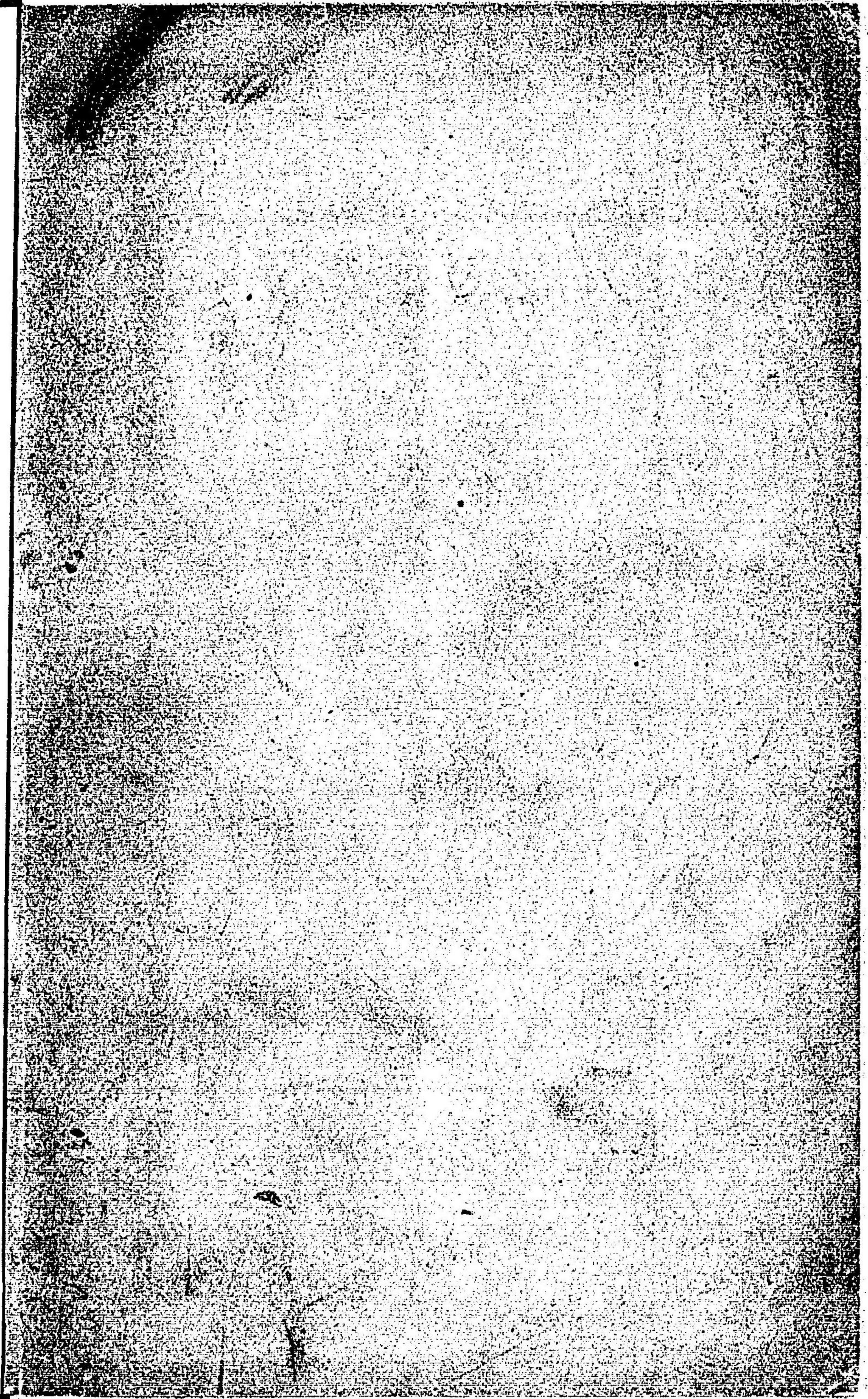
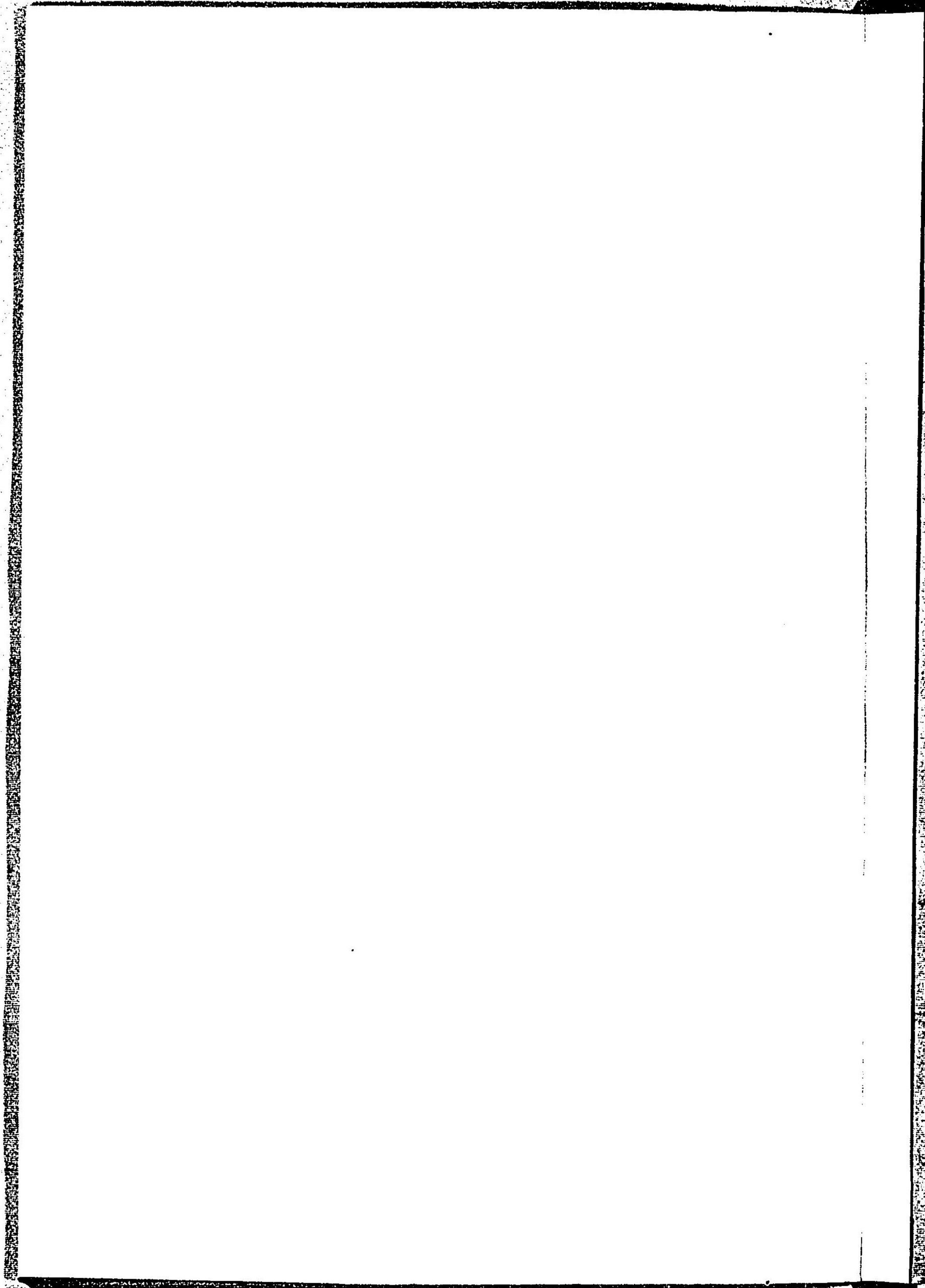
大賣捌

東京市表神保町
大坂備後町四丁目
全 備後町四丁目
全 北久太郎町
京都佛光寺通烏丸

東京 堂
吉岡平助
梅原龜七
柳原喜兵衛
東枝律書房

名古屋本町三丁目
熊本新町二丁目
神戸榮橋詰
廣島廣町
鹿兒島仲町

川瀨代助
長崎治郎
熊谷幸助
松村善助
吉田幸兵衛



1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

特21

880

大祭祝日義解

国立国会図書館

014349-000-1

特21-880

大祭祝日義解

内藤 耻叟/著

M24

ABB-0700

